

誠和会

山本 邦男  
山本 義一  
古川 宏史  
北村 新司  
横田 義和  
中田 眞司

代表  
質問  
山本 義一

◆行財政問題

**問** 平成17年度当初予算編成に行財政改革がどのように反映されたのか。また、当初予算の財源確保をどのように取り組むのか。

**市長** 行財政改革推進室の取り組みにより、17年度当初予算に反映させた事務事業の見直し額は、歳入増と歳出の削減の額を合わせて1億7千980万7千円であります。また、財政課の予算編成の過程で1億9千698万8千円の節減額を生み出し、合わせた節減額は合計3億7千679万5千円で、目標額を1億1千679万5千円上回る成果を上げています。

当初予算財源確保の取り組みは、節減額3億7千679万5千円を財源として

新年度予算に再配分することにより、新規事業を含む各種事業の所要額を確保したほか、引き続き国・県の補助制度や交付税措置のある起債を活用し、なお不足する財源は、財政調整基金をはじめとする各種基金の取り崩し14億130万7千円により対応しました。

**問** 新総合計画で取り入れたパブリックコメント（市民意見提出）制度を他の事業計画にも実施する考えはないか。

**市長** 主要計画の策定や大規模事業を進めるにあたり、市民の意見を施策に反映させるため、パブリックコメント手続の制度化を検討します。

◆教育問題

**問** 「八街教育の日」を制定してはどうか。

**教育長** 今までに培ってきた連携教育を土台として「八街教育の日」を検討し、各学校で授業公開やミニ集会などを行いたいと考えています。また、学校から地域・家庭へ情報を発信したり地域や家庭の方々が学校に来ていただくことは、大変意義深いと考えています。



**問** スポーツ少年団への加入促進を。

**教育長** 団員の募集記事を広報やちまたやホームページに掲載し、加入促進を図り、今後も八街市スポーツ少年団と連携し、加入促進に努めたいと考えています。

**問** 学校と地域のパイプ役としての八街市教育センターを設置してはどうか。

**教育長** 学校と地域のパイプ役としての機能を幼小中高連携推進事業を中軸にして、各中学校区が担うとともに、教育委員会が調整役を果たし、現体制を充実させるとい方向で進進したいと考えています。

**問** 青少年健全育成都市宣言をしてはどうか。

**教育長** この宣言は、幼小中高連携教育で幼いころから継続して規範意識や社会性を育て、子どもたちの「生きる力」を育む教育と共通するものですので、当面は、青少年健全育成都市宣言と同様の目的で現在展開している諸事業を中核として、家庭・地域の教育力及び青少年健全育成のさらなる充実に向けて力を入れたいと考えています。

◆環境問題

**問** 新たな残土条例を制定することですが、主な改正内容は。

**市長** 主な改正内容は、土砂等の埋立て等の面積が3千平方メートル以上の物件であってもすべて市長に許可権があります。（現在3千平方メートル以上は、知事）また、許可が必要ない造成等であっても、何人も安全基準に適合しない土砂等を使用して土砂等の埋立て等を行ってはならないという規定を設け、罰則の中には土地所有者が措置命令

の違反をした場合の規定を新たに設けています。

**問** ゴミの「ポイ捨て」をさせないために市の取り組みは。

**市長** 最も重要な点は、国民一人一人の環境美化意識の向上と考えています。具体的取り組みは土地所有者、各地区の方々のご協力により「市内一斉ごみゼロ運動」や土地所有者からの希望により、ポイ捨て禁止看板の配布などを行い、環境美化意識のPR活動を行っています。また、罰則規定もありません。

その他では、毎年市内の小学4年生を対象に、授業の一環としてクリーンセンターの見学、ごみの減量化・分別・リサイクルの重要性を理解させるなど、モラル的な見地を含めた環境問題に対する意識の向上を合わせて進めています。

**問** 荒廃した山林を整備して公園にしてはどうか。

**市長** 県では、森林・谷津田・水辺等が一体となった自然環境の保全、整備を目的とした里山保全条例が施行されていますので、これと整合を図り、環境の保全だけではなく、健康づくり、

◆八街交番について

**問** 八街交番の移転計画の進捗状況はどうか。また、具体的な位置と規模はどのようになっているのか。

**市長** 中央公民館前ふれあいバスターミナル横の道路管理課資材置き場として使用している土地を移転候補地として、平成16年9月に佐倉警察署長に移転依頼しました。規模等施設の詳細は、現段階では不明ですが、市民の皆さんが現在より利用しやすい建物と聞いています。

